
LIFE GEM

ライフゼムプレッシャデマンド形 空気呼吸器取扱説明書

M30 シリーズ

- 正しくお使いいただくために、この取扱説明書をよくお読みください。
- 取扱説明書は、必ず保存してください。なくされたときは、代理店にお申しつけください。

ライフゼムM30シリーズは、工場、鉱山などの事業場、火災現場、大気圧を超える環境、ずい道その他において、酸素欠乏空気、人体に有害な粉じん、ガス、蒸気などを吸入するおそれがあるときに使用するプレッシャデマンド形の空気呼吸器です。その他の用途には使わないでください。

<本文中の表示について>

「警告」・「注意」の表示は特に重要な部分ですので必ず守ってください。

⚠ 警 告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注 意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

日本国外で使用される場合は、保証対象外となっておりますので、購入代理店までお問い合わせください。

目 次

1. 安全に正しくご使用いただくために	1
2. 各部の名称とはたらき	2
3. 購入時の確認事項	4
4. 使 用 法	5
4. 1 呼吸器の準備	5
4. 2 着 装 前 の 点 検	10
4. 3 着 装 方 法	12
4. 4 使用中の注意事項	14
4. 5 脱 装 方 法	16
4. 6 使用後の手入れ	17
5. 器械の保守	19
6. 特別注文品	20
7. 特殊環境下における取扱い	21
7. 1 低温時における取扱い	21
7. 2 高温時における取扱い	22
7. 3 高気圧下における取扱い	22
8. そ の 他	23
8. 1 ボンベの充てん	23
8. 2 圧力指示計のグリーンゾーンとレッドゾーン	24
8. 3 バンド類取付図	25
9. M30シリーズ点検整備要領書	26
10. 主要諸元	28
11. 部品交換要領	30
11. 1 減圧弁Oリングの交換方法	30
11. 2 圧力指示計ゴムカバーの交換方法	30
11. 3 圧力指示計導気管のゴムバンド交換方法	31
11. 4 しめひもの交換方法	31
空気呼吸器調整器保証規定	32

1. 安全に正しくご使用いただくために

この呼吸器を安全にご使用いただくために、下記の注意事項を守ってください。誤った取扱いをされた場合、装着者の生命が危険な状態にさらされることとなります。

警告

<使用について>

- 定期的に保守点検を実施してください。点検せずに使用すると、呼吸器が故障するなど事故の原因となります。
- 十分な訓練を積み、使用法を修得してください。誤った使用をすると事故の原因となります。
- 鼓膜の破れた方は使用しないでください。気密が保てません。
- 呼吸器の手入れには、油脂類を使用しないでください。使用すると燃焼することがあります。
- 使用前には必ず「**装着前の点検**」(4.2項参照)を実施してください。異常のあるときには使用しないでください。事故の原因となります。
- 改造、分解はしないでください。正常な機能や安全を保証できません。
- メーカー純正部品を使用してください。純正部品以外の部品を使用した場合、正常な機能や安全を保証できません。
- 調整器内に水が入った場合は、使用を中止して、安全な場所で完全に水を排出した後、乾燥した状態で使用してください。

<使用環境について>

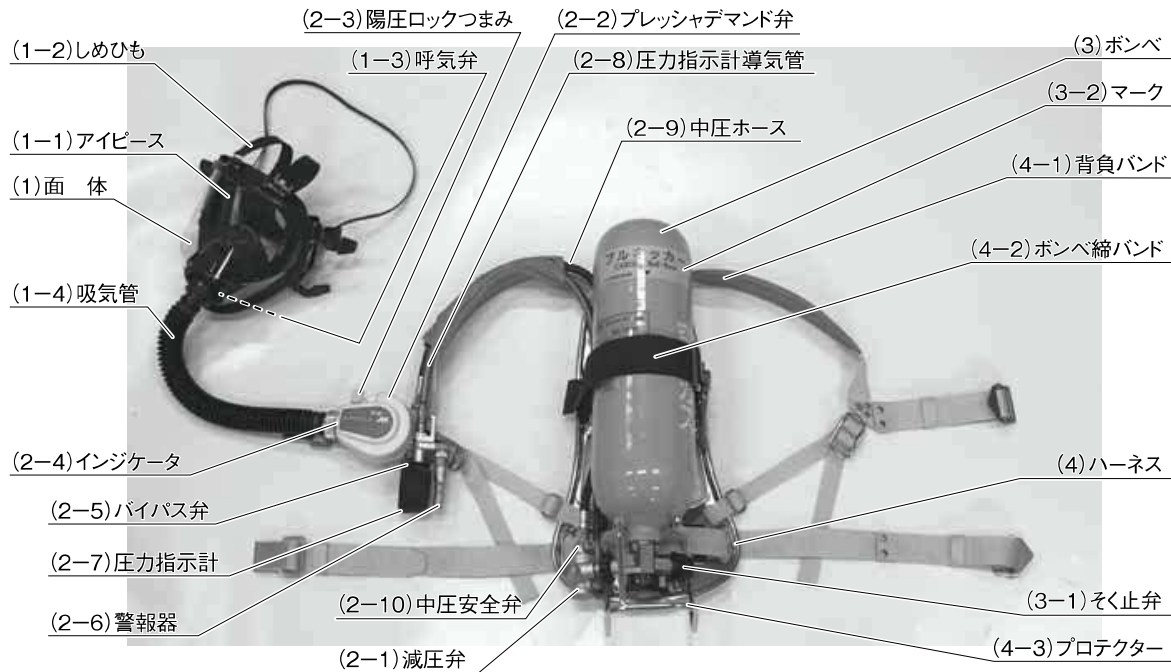
- 水中では使用できません。生命に危険があります。
- 皮膚を通して害を与えるような有害ガスのあるところで使用する場合には、呼吸器の他に防護衣などが必要です。
- 70℃以上または-20℃以下の環境では使用できません。使用する場合は、呼吸器に対する部分的あるいは全面的な防護が必要です。
- 環境温度が-20℃～5℃で使用する場合、乾燥した呼吸器を使用してください。水分があると凍結して、呼吸できなくなることがあります。
- 高気圧下での使用は、大気圧下での使用と異なり注意が必要です。(7.3項参照)

<退避について>

以下の項目のいずれかに当てはまる場合は、作業を中断し、速やかに退避してください。これを無視すると、安全に避難できません。

- 残りの空気量が、安全に避難するのに必要な空気量になったとき(4.4項参照)。
- 警報器が鳴り始めたとき。
- 呼吸器の異常により呼吸が苦しい、または環境空気の流入を感じたとき。
- 体調の異常を感じたとき。

2. 各部の名称とはたらき



全体構成図

(本図は、530CIIZボンベ、CS面体を装着しています。)

(1) 面体

SV面体とCS面体の2種類があります。

- (1-1) アイピース
- (1-2) しめひも
- (1-3) 呼気弁

呼気したときに開き、吸気したときに閉じる弁です。

- (1-4) 吸気管

(2) 調整器

減圧弁、プレッシャデマンド弁などから構成され、高圧空気を大気圧付近にまで減圧する装置です。

- (2-1) 減圧弁

高圧空気を約0.6MPa(中圧空気)に減圧する装置です。

- (2-2) プレッシャデマンド弁

中圧空気を大気圧付近まで減圧し、かつ面体内の圧力を陽圧に保つプレッシャデマンド機能を持った弁です。呼吸に応じて作動します。

また、着装後の最初の吸気で面体内の圧力を陽圧に切り替える自動陽圧機能を備えています。

(2-3) 陽圧ロックつまみ

このつまみを回すと、プレッシャデマンド機能がOFFになります。

(2-4) インジケータ

プレッシャデマンド機能が、ONかOFFかを示すものです。赤色が見えればOFF、赤色が見えなくなればONを示します。

(2-5) バイパス弁

使用中にプレッシャデマンド弁が故障した場合に、減圧弁側の空気をプレッシャデマンド弁を経由しないで直接供給するための手動弁です。また、点検、使用後の器械内の圧力を逃がすためにも使用します。

(2-6) 警報器

ボンベ圧力が始動設定圧力（標準は3MPa）に減少したときに、警報音が鳴ります。

(2-7) 圧力指示計

(2-8) 圧力指示計導気管

圧力指示計および警報器に高圧空気を通す耐圧ホースです。

(2-9) 中圧ホース

減圧弁からプレッシャデマンド弁に中圧空気を通す耐圧ホースです。

(2-10) 中圧安全弁

中圧が設定圧力以上になったとき、空気を放出することにより圧力の上昇を防ぐ安全装置です。

(3) ボンベ（高圧空気容器）

(3-1) そく止弁

ボンベに付属する開閉用の弁です。

(3-2) マーク

ブルネッカーボンベは「ブルネッカー」のマーク、ブルネックボンベでは「ブルネック」のマーク、鋼製容器では三角マークです。

(4) ハーネス

呼吸器を背中に着装するための装置です。

(4-1) 背負バンド

(4-2) ボンベ締バンド

(4-3) プロテクター

3. 購入時の確認事項

(1) 収納品の確認

収納品について、損傷や部品の不備がないかを確認してください。なお、下記の明細は完備品の場合です。

面体（CS面体またはSV面体）	1
調整器	1
ハーネス	1
ボンベ(高圧空気容器)(※)	1
取扱説明書(本書)	1
トランクケース	1

※ ブルネックおよびブルネッカーボンベの場合は、ボンベ本体、ボンベ取扱説明書、ラベル(アルミ箔)、保護シートを含む。

(2) 高圧空気容器（ボンベ）の所有者氏名等の表示

高圧ガス保安法 容器保安規則の規定により、容器に所有者の氏名などを表示することが義務づけられています。容器に添付されている説明書にもとづいて所有者氏名等を表示してください。

(3) ボンベの圧力の確認

ご購入時の充てん圧力は、ボンベの種類によって、およそ下表に示すとおりです。ボンベに圧力指示計が付属していないボンベの場合は、呼吸器に接続し圧力指示計でご確認ください。

なお、圧力が低下している場合には、ご購入された代理店にご連絡ください。

ボンベの種類	35℃での最高充てん圧力	ご購入時の充てん圧力	
		上限値	下限値
29.4 MPaボンベ	29.4 MPa	周囲温度最高充てん圧力	周囲温度最高充てん圧力-2.4 MPa
14.7 MPaボンベ	14.7 MPa	周囲温度最高充てん圧力	周囲温度最高充てん圧力-1.2 MPa

※ 充てん圧力は、ボンベの周囲温度によって変化します。周囲温度最高充てん圧力については、22ページの「8.1 ボンベの充てん」をご参照ください。

4. 使用法

4.1 呼吸器の準備

次の要領にもとづき各部を組み立て、いつでも使用できるよう整備しておいてください。低温、高温、高気圧下で使用される場合は、7項の「特殊環境下における取扱い」をご参照ください。

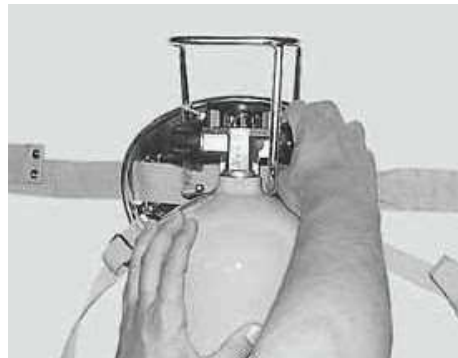
(1) ポンペと減圧弁の接続

- ① ポンペを背負具（ハーネス）にのせる。
- ② 減圧弁をそく止弁に取り付ける。

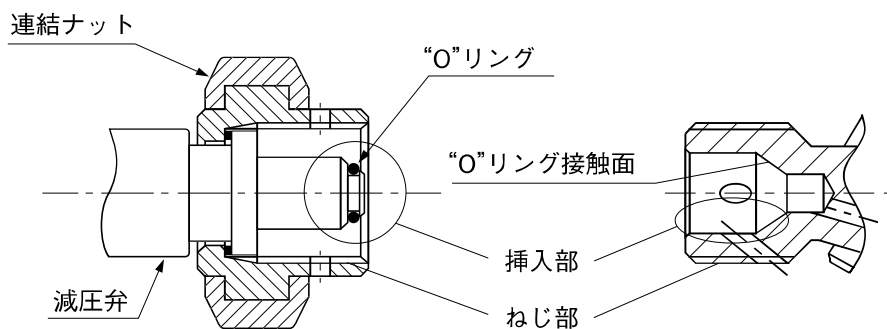
(第1図参照)

このとき次の確認を行なってください。

- ・ そく止弁と減圧弁の接続部（ねじ部および挿入部）に異物の付着がないこと。
- ※ 異物の付着があれば、取り除いてください。
- ・ “O”リングおよびそく止弁の“O”リング接触面に傷がないこと。(第2図参照)
- ※ 傷のあるものは、使用しないでください。気密が保てません。



第1図



第2図

- ・ 中圧ホースおよび圧力指示計導気管が交差したり、強く引っ張られたり、大きくたるんだりしていないこと。
- ※ 異常のある場合は、左肩バンドのカバーのホック（3か所）をはずし調整してください。

(2) ポンベの固定

ポンベを下記の要領でハーネスに固定してください。

① ポンベそく止弁のハンドルが背板に対して水平になるようにポンベを調整してください。

※ このとき、ポンベ肩部がプロテクターに当たるように置いてください。

② フックをバックルに引っ掛けてください。(第3図参照)

③ ベルトのあまりを引いてたるみをとってください。(第4図参照)

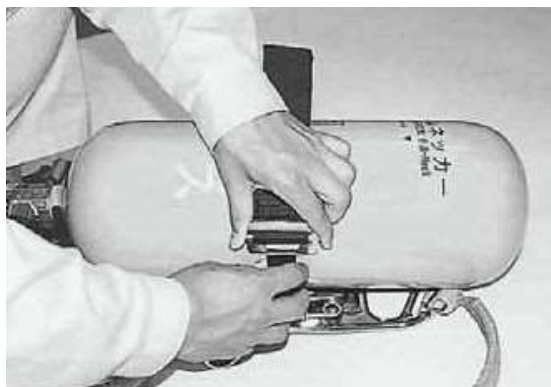
※ このとき、レバーは上にした状態でベルトを引いてください。

④ ベルトの余りをマジックテープで貼りあわせて固定してください。

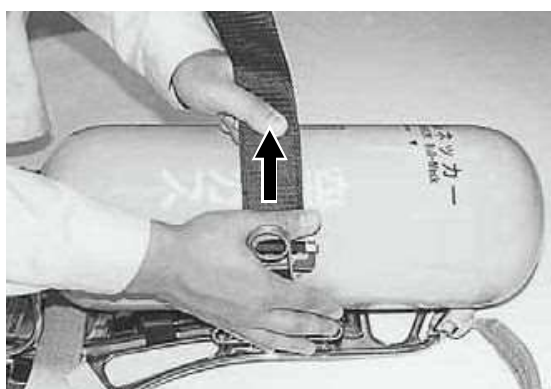
⑤ レバーを時計方向に回してください。

⑥ レバーをロック側へ倒しロックしてください。(第5図参照)

⑦ ポンベがハーネスにしっかりと固定されていることを確認してください。



第3図



第4図



第5図

⚠ 注意

- ポンベがしっかり取り付けられていないと、使用中にポンベが落ちて、けがをするおそれがあります。

※ ポンベは使用時間に適したものを取り付けてください。ポンベは10. (2)項を参照してください。

※ 既にポンベが取り付けられている場合には、ポンベが確実に取り付けられていることを確認してください。

- (3) 呼気弁は正しく取り付けられていることを下記の要領にもとづいて確認してください。

<呼気弁点検要領>

- ① 呼気弁カバーを外してください。(第6図、第7図参照)

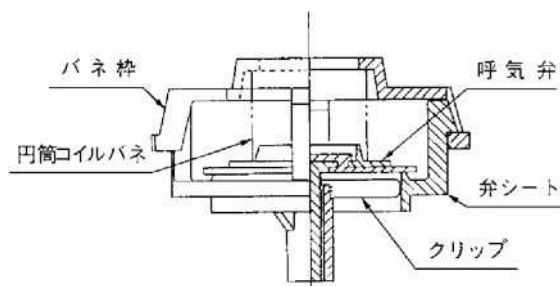


第6図(CS面体の場合)

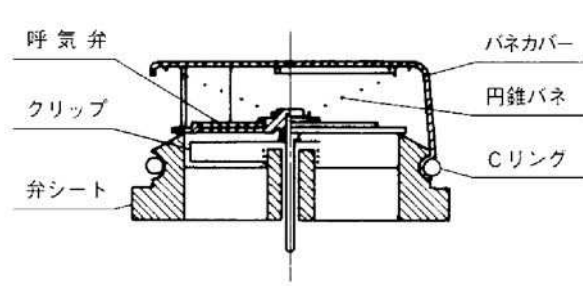


第7図(SV面体の場合)

- ② 呼気弁のバネ枠またはバネカバーは、弁シートに確実に装着されていることを確認してください。(第8図、第9図参照)



第8図(CS面体の場合)



第9図(SV面体の場合)

- ③ 呼気弁の円筒コイルバネ(SV面体の場合は円錐バネ)は、呼気弁およびバネ枠(バネカバー)に確実にハマりこんでいることを確認してください。
- ④ 弁シートと呼気弁との間にごみなどがついていないことを確認してください。なお、点検は目視で行い、指やドライバーなどで呼気弁を持ち上げたりしないでください。

- ⑤ 点検後、呼気弁カバーを**第10図**、**第11図**に示すように、両側を軽く押さえて取り付けてください（カチッと音がしてはまる）。



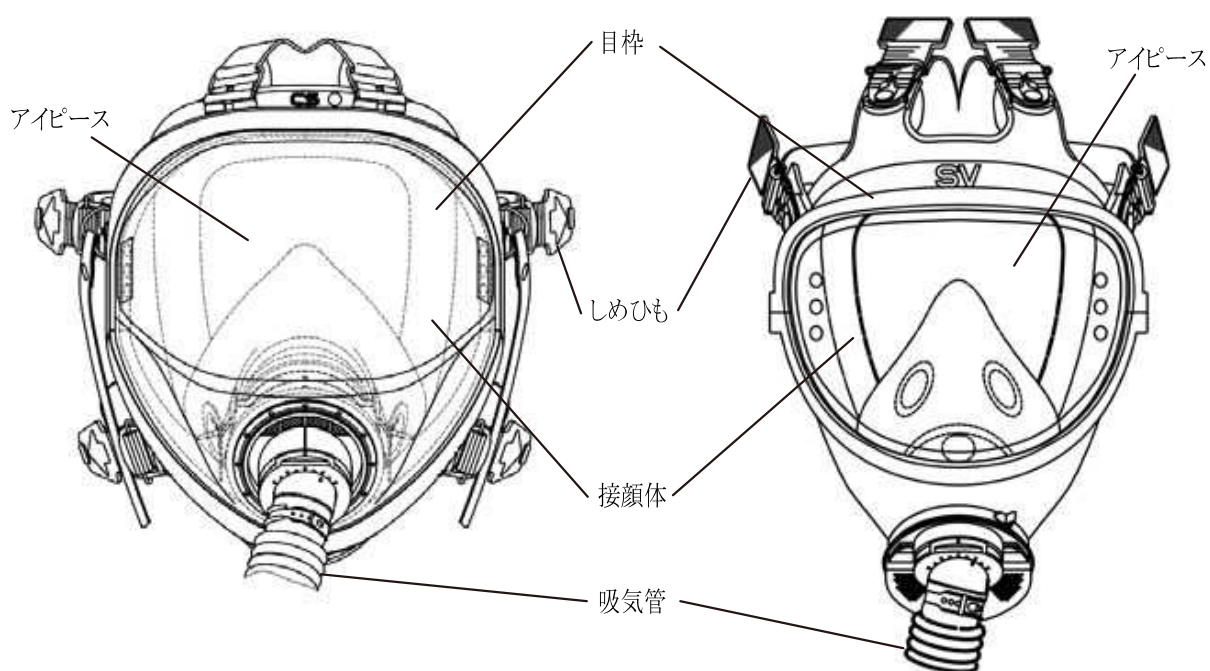
第10図（C S面体の場合）



第11図（S V面体の場合）

- (4) 下記の要領にもとづいて面体の点検を行ってください。**(第12図、第13図参照)**

- ① アイピースに視野を阻害する汚れ、歪み、割れなどないか確認してください。
- ② 目枠・接顔体に破損、孔あき、裂け、変形など異常がないか確認してください。
- ③ しめひも・吸気管を引っ張り、弾力性があること、ひび割れがないことを確認してください。
- ④ 面体内部に、ゴミなどの異物が付着していないことを確認してください。ゴミなどの異物が付着していた場合は、綿棒などの柔らかいものを使ってごみなどの異物を取り除いてください。



第12図（C S面体）

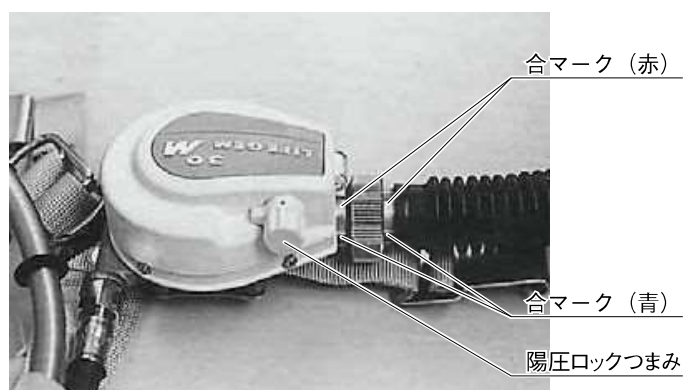
第13図（S V面体）

⚠ 注意

- アイピースを研磨剤で磨かないでください。
アイピースが傷つき、視界が悪くなります。
(傷がつきやすい作業時にはカバーグラス(オプション)をご利用ください。)
- 面体に異常がある状態で使用しないでください。
使用中に破損や切れが広がり、外気が侵入する恐れがあります。
- 面体を折り曲げたり、変形させたり、過度な力を加えることはしないでください。
部品が外れたり破損する恐れがあります。

(5) 吸気管をプレッシャデマンド弁に接続してください。

- ① インジケータが赤色になっていることを確認してください。
- ② 吸気管をプレッシャデマンド弁の接続部に合マークを合わせて、手でしっかり締めつけてください。(第14図参照)



第14図

(6) 圧力指示計レンズカバーの緩み確認

- ① ゴムカバーの前面を指ですらす。
- ② 圧力指示計のレンズカバーが締まっていることを確認する。
緩んでいる場合は第15図のように手で増し締めをする。
- ③ ゴムカバーを元に戻す。



第15図 (レンズカバーの増し締め)

4. 2 着装前の点検

呼吸器を着装する前に、次の外観、機能点検を手順にもとづいて実施してください。

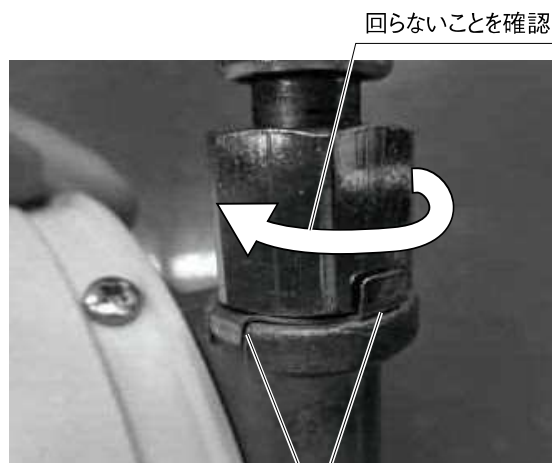
⚠ 警告

- 異常がある場合はそのまま使用しないでください。事故の原因となります。異常のあるものは、9項の「点検整備要領書」にもとづき点検、整備を行ってください。

(1) 外観点検

- ① ボンベはハーネスに、減圧弁はそく止弁に、吸気管はプレッシャデマンド弁に確実に取り付けられていることを確認してください。
- ② 各部に損傷がないことを確認してください。特に、面体、しめひもなどのゴム部分の老化（粘着、亀裂など）、アイピース、しめひも取付具などに破損の箇所がないことを確認してください。
- ③ 調整器の圧力指示計の指針がゼロを示していることを確認してください。
- ④ 中圧ホースとプレッシャデマンド弁の結合部は、回り止め金具のつめが上2箇所・下2箇所です折れ曲がり（**第16図**の状態）、中圧ホースの回り止め（ゆるみ止め）となっていることを確認してください。

ナットの回転が1/4回転未満は正常ですが、1/4以上回転する場合回り止めが効いていません。つめを密着するよう**第16図**の状態に折り曲げてください。



第16図 回り止め金具のつめ

※ つめを曲げるにはプライヤーなどで、挟み込んで折り曲げてください。

(2) プレッシャデマンド機能および自動陽圧機能の点検

- ① バイパス弁が閉じていることを確認してください。
- ② インジケータが赤色になっていることを確認してください。（**第17図**参照）

※ インジケータから赤色（赤色片）が見えていればOFFです。見えなければ陽圧ロックつまみを矢印の方向に回し（カチッと音がする）、OFFにしてください。

③ そく止弁のハンドルをゆっくり全開してください（反時計方向に回す）。

④ 調整器の圧力指示計の指針が、次の値を示すのを確かめてください。

29.4MPa用ポンペの場合、26MPa以上

14.7MPa用ポンペの場合、12MPa以上

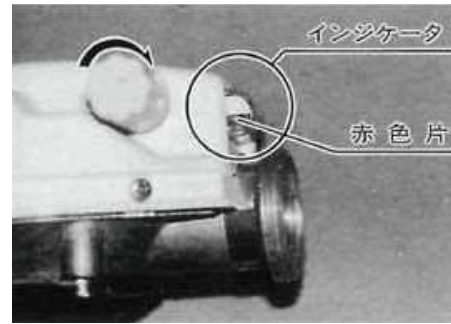
ポンペの圧力は周囲温度によって変化します。詳しくは4ページのポンペの圧力の確認をご確認ください。

⑤ 面体を顔に当て深く呼吸してください。最初の吸気で“バチッ”と音がして、プレッシャデマンド弁から空気が供給されれば、自動陽圧機能は良好です。

⑥ 面体を顔からわずかに離し、面体と顔との隙間から空気が噴出するのを確認してください。空気が噴出すれば、プレッシャデマンド機能は良好です。

⑦ 呼吸を止め、陽圧ロックつまみを第17図の矢印の方向に回し（カチッと音がする）、面体を顔から外してください。

※ 空気の消費量を少なくするために、⑥、⑦の操作は素早く行ってください。



第17図

(3) 高圧、中圧部の点検

① そく止弁のハンドルを閉じてください。

② そのままで、1分間調整器部の圧力指示計の指針の変化を見てください。示度の変化が1目盛（1MPa）以内であれば、気密は良好です。

③ バイパス弁を少し開いて徐々に圧力を下げ、始動設定圧力（標準は3MPa）付近で警報が鳴ることを確かめてください。

④ バイパス弁を大きく開いて圧力を抜いたあと、バイパス弁を閉じてください。

※ 1. ③、④の際、圧力指示計の指針がスムーズに動くことも確認してください。

※ 2. ごくまれですが、ポンペのそく止弁を開いたとき、減圧弁の中圧安全弁から空気が洩れることがあります。中圧安全弁から空気が洩れているものは、上記の高圧・中圧部の気密点検を実施したとき、圧力指示計の指針が下がります。指針の下がり方が1分間に1目盛以下でも、中圧安全弁から空気の放出が明らか（シューと音がする）ものは、早めにメーカーに修理を依頼してください。

4. 3 着 装 方 法

(1) 器械を下記の順序で装着してください。

- ① 器械を背負ってください。
- ② 脇バンドを下へ引き、背中に固定してください。

(第18図参照)



第18図



第19図

- ③ 胸バンド、腰バンドを連結し、バンドの長さを調節してください。

(第19図参照)

※ バンドと金具が外れた場合は8. 2項の「バンド類取付図」にもとづいて取り付けてください。

(2) プレッシュデマンド弁のインジケータが赤色になっていることを確認してください。次に、そく止弁のハンドルを軽く止まるまでゆっくり全開してください。

⚠ 注 意

- 呼吸器を正しく作動させるため、そく止弁のハンドルは完全に開いてください。空気が十分補給されず、呼吸が苦しくなるおそれがあります。

(3) 面体を下記の順序で装着してください。

- ① つりひもを首にかけてください。
- ② しめひもをゆるめてください。
- ③ 面体を顔にそわせ、あごの方からかぶってください。(第20図参照)
このとき、髪の毛をはさみ込まないように注意してください。

※ 面体を頭の方からかぶらないでください。しめひもに無理な力がかかり、早くいただきます。

- ④ 左右のしめひも（CS面体は4本、SV面体は6本）を締め付けてください。(第21図参照)



第20図



第21図

- ⑤ 深く呼吸をしてください。“バチッ”と音がして、自動的に陽圧になります。
- ※ 1. ヘルメットをしたままでは、面体は装着できません。ヘルメットを脱いでから、面体を装着してください。
 - ※ 2. 眼鏡をかけたままで、面体をかぶらないでください。気密が保てません。専用のメガネレンズ取り付け枠がありますので、代理店にご相談ください。
 - ※ 3. 拡声装置付きの面体の場合は、面体をかぶる前に電源をOFFにしてください。面体をかぶったあと電源をONにしてください。
 - ※ 4. 面体を首に掛けた作業などで、面体やプレッシャデマンド弁内に水や異物が入っていれば取り除いてください。除きにくいときは、面体をプレッシャデマンド弁から外して、プレッシャデマンド弁の出口を下に向けて、バイパス弁を開き、回路内に空気を多量に放出させ、水や異物を排出してください。
- (4) プレッシャデマンド機能の確認をしてください。
- ① 面体の「ほほ」の部分に指を差し込み、空気がシューと音を立てて漏れることを確認してください。漏れなければ異常ですので、使用しないでください。
 - ② その後、すぐに指を抜いてください。
- (5) 面体の気密点検を行ってください。
- ① 吸気管を強く握りしめて閉塞し、頭を上下、左右に動かしながら、強くおよび弱く吸気してください。
面体が顔に吸いついたりして、漏れを感じなければ、気密は良好です。
 - ※ 1. 漏れを感じた場合は、再度面体をかぶり直し、再度上記①の点検を行ってください。

⚠ 警告

- 面体をかぶり直しても漏れがある場合は、使用しないでください。使用時間が短くなるばかりか、有害外気を吸い込むおそれがあります。

※ 2. 面体の接顔部沿いの部分に前髪、あごひげ、もみあげなどの髪の毛や、傷跡、深いしわ、出っ張った頬骨がある場合には、気密を妨げることがあります。

- ② 吸気管から手を離し、2～3回強く呼吸して、スムーズに呼吸できることを確認してください。

⚠ 警告

- 呼吸したときに異音がする、苦しいなどの異常がある場合は、使用しないでください。事故の原因となります。

- (6) ボンベ圧力が十分あることを確認してください。

4. 4 使用中の注意事項

- (1) 使用時間は、使用開始前のボンベ圧力、作業の内容（活動の程度）によって異なります。ときどき圧力指示計を見てボンベ圧力を確認し、作業場所から安全な場所へ帰るのに必要な空気を残して作業を打ち切り、安全な場所に退避してください。

《作業打切時のボンベ圧力を算出するときの目安は次の通りです。》

$$\text{ボンベ圧力 (MPa)} = [\text{帰投所要時間 (分)}] \times [\text{※ 1 の値}] + 0.5$$

[※ 1]は次のとおりです。 ※ 1

815C (Z)、815F (Z)、815ボンベの場合	0.5
530C II (Z)、530F II (Z) ボンベの場合	0.8
730C III (Z) ボンベの場合	0.6
930C II (Z) ボンベの場合	0.4
615ボンベの場合	0.7
415ボンベの場合	1

上記は、呼吸による空気消費量を約35ℓ/minの場合で示しています。

⚠ 警 告

- 退避に必要なボンベ圧力を確認してください。確認をおこたるとボンベ圧力がなくなり、退避できなくなることがあります。

- (2) 警報器は、ボンベ圧力が始動設定圧力（標準は3MPa）付近になると鳴動します。上記(1)の作業打切時のボンベ圧力にかかわらず、警報音が鳴れば退避してください。

⚠ 警 告

- 警報音が鳴ると、作業を打ち切り安全な場所に退避してください。ボンベ圧力がなくなり、退避できなくなることがあります。

- (3) 呼吸器の異常（故障、呼吸抵抗の増減等）により呼吸が苦しい場合は、直ちにバイパス弁を開き、空気を補給するとともに安全な場所に退避してください。
※ バイパス弁を開きすぎると必要以上の空気が放出されますので、使用時間が短くなります。

⚠ 警 告

- 呼吸が苦しい場合、面体をむやみに外さないでください。有害な空気を吸い込むおそれがあります。

- (4) 体調の異常（めまい、吐き気、寒気、呼吸困難、脱力感、発熱、目への刺激など）を感じたときには、安全な場所に退避してください。

⚠ 警 告

- 体調の異常を感じたときには、すぐ退避してください。無理をすると、退避できなくなるおそれがあります。

4. 5 脱装方法

(1) 以下の順序で脱装してください。

- ① 陽圧ロックつまみを回し、OFFにしてください（カチッと音がする）。
- ② 呼吸を止め、しめひもをゆるめ面体はずしてください。
- ※ 陽圧ロックつまみを回したあと呼吸をすると、自動的に陽圧に切り替わります。面体を外したとき、空気が放出していれば、もう一度陽圧ロックつまみを回し、空気の放出を止めてください。
- ③ そく止弁を閉じてください。
- ④ 器械をおろしてください。面体、プレッシャデマンド弁、圧力指示計などが下敷きにならないように置いてください。

⚠ 注意

- 脱装した器械を投げたり、落としたり、強い衝撃を与えないでください。また、水のかかるところや炎天下に放置しないでください。故障の原因となります。

- ⑤ バイパス弁を開き、調整器部の圧力指示計の指針がゼロを示すのを確認して、元通り閉じてください。

(2) 同一の器械を引き続き使用する場合

- ① 上記手順に続いて、ボンベを取り外してください。

⚠ 注意

- ボンベを外すときは、バイパス弁をあけて器械内（ボンベを除く）の圧力を抜いてから行ってください。圧力が溜まったままで減圧弁とそく止弁との接続部を緩めると、その接続部の“O”リング（第5図参照）を破損することがあります。

- ② 充てんされたボンベに取り換えてください。
- ③ そく止弁の接続部にキズがないことを確認してください。
- ④ ボンベをハーネスに確実に取り付けてください。（4.1.(1)項参照）

⚠ 注意

- ボンベはしっかりとハーネスに取り付けてください。使用中にボンベが落ちてけがをするおそれがあります。

使用する前に、4. 2項の「装着前の点検」を必ず行ってください。

4. 6 使用後の手入れ

使用後はそのまま放置せず、面体の洗浄、消毒、空気充てんなどを行ってください。

(1) 面体の洗浄

- ① プレッシュダイヤモンド弁から吸気管を外してください。
- ② 面体を水洗いしてください。または、微量の中性洗剤を溶かした水溶液を柔らかい布につけてふき、そのあと水ですすぎ洗いしてください。

特に、呼気弁に、だ液、汗が付着したまま、長期間放置すると、呼気弁が円滑に作動しないことがあるので、よく洗浄してください。

- ※ 1. 有機溶剤やアルカリ洗剤など、中性洗剤以外は使用しないでください。
 - ※ 2. 水洗いは、あらかじめ容器に溜めた水をつかって洗ってください。水道の蛇口などから直接強い水流を面体にあてると、故障の原因となります。
 - ※ 3. 拡声装置付きの面体の場合は、拡声装置に水がかからないよう洗浄してください。
- ③ 柔らかい布で水分をふき取り、風通しの良い日かげで乾燥させてください。

⚠ 注意

- 直射日光、ストーブなどのそばで、乾燥させないでください。ゴム、プラスチック部品を劣化させます。

(2) 面体の消毒

消毒用アルコールを柔らかい布につけてふいてください。

- ※ 消毒用アルコール以外の薬品は使用しないでください。

(3) 面体以外の汚れた部分は、水で湿らせた柔らかい布で汚れをふき取ってください。

(2) 面体の消毒

消毒用アルコールを柔らかい布につけてふいてください。

※ 消毒用アルコール以外の薬品は使用しないでください。

(3) 面体以外の汚れた部分は、水で湿らせた柔らかい布で汚れをふき取ってください。

(4) 吸気管をプレッシャデマンド弁に確実に接続してください。(第12図参照)

(5) 使用済みのボンベは、呼吸器から外し、充てんを依頼してください。充てんは、8. 1項の「ボンベの充てん」にもとづき実施してください。

※ ボンベが空のとき、水分やほこりが入らないように、そく止弁は閉じてください。また、ねじの保護キャップを取り付けてください。

(6) 次回の使用に備えて点検、整備を行ってください。4. 1項の「呼吸器の準備」、4. 2項の「装着前の点検」により実施してください。

※ 異常のあるものは9項の「点検整備要領書」にもとづき点検してください。損傷したもの、異常のあるものは修理を依頼してください。

 警告

- 損傷したもの、異常のあるものは放置したり、再使用しないでください。事故の原因となります。
- 器械の手入れには油脂類は使用しないでください。燃焼することがあります。

5. 器械の保守

(1) 保 管

- ① 十分に空気が充てんされたボンベを取り付けてください。
- ② バイパス弁をあけて器械内（ボンベを除く）の圧力を抜いてください。その後、バイパス弁は閉じてください。
- ③ 陽圧ロックつまみを回し、OFFにしてください。
※ ONにしたまま保管すると、故障の原因になります。
- ④ トランクケースに収容してください。直射日光の当たらない40℃以下で、ほこりの少ない、乾燥した場所に保管してください。

(2) 保守点検

少なくとも3ヶ月に1度、9項の「点検整備要領書」にもとづき点検を行ってください。

- ① ボンベの点検整備については、各ボンベの取扱説明書または注意ラベルにもとづき実施してください。
- ② 中圧ホース、圧力指示計導気管、面体、その他ゴム部品で、購入後1年以上経過したものは、亀裂、粘着、変形など外観上の異常がないか点検してください。異常のあるものは速やかに交換してください。
ゴム部品の交換の日安は購入後3年です。なお、中圧ホース、圧力指示計導気管は外観に異常が見られなくても、製造年月日から起算して10年で交換してください。
※ ゴム部品は紫外線（日光）、オゾン、熱に曝されることによって、亀裂等の劣化が促進され、短時間で劣化することがあります。寿命を延ばすためにも、日常、紫外線（日光）等に曝されないよう保管や設置される環境にはご注意ください。
- ③ ボンベ締バンドに損傷がないか確認してください。異常のあるものは、速やかに交換してください。なお、5年を経過したものは、すべて交換してください。

⚠ 警 告

- 損傷したもの、異常があるものは放置したり、再使用したりしないでください。事故の原因となります。

部品の購入および修理の依頼は、代理店へご連絡ください。

(3) オーバーホール

器械の損傷程度は、使用の頻度、使用後の手入れ、保管状態により差がありますが、購入後3年ごとに、メーカーにオーバーホールを依頼してください。

尚、器械の修理できる期間は、製造年月から起算して15年です。

6. 特別注文品

ご注文により下記のものを取り付けることができます。詳細については、代理店にお問い合わせください。

- (1) 拡声装置
- (2) 警報器（始動設定圧力：6MPa）
- (3) レスクマスク
- (4) レスクマスクバディ
- (5) エアーライン複合式キット
- (6) 難燃仕様ハーネス
- (7) ボンベカバー
- (8) ボンベ用圧力指示計
- (9) メガネレンズ取付け枠
- (10) カバーグラス
- (11) クリアビュー
- (12) 曇止液
- (13) 面体アイピース用保護カバー

7. 特殊環境下における取扱い

7. 1 低温時における取扱い

環境温度が $-20^{\circ}\text{C}\sim 5^{\circ}\text{C}$ で使用する場合、呼吸器内に水が存在すると凍結し、呼吸を妨げることがあります。

環境温度が -20°C 以下の場合、呼吸器の上から防寒衣をかぶるなど、呼吸器自体の防寒対策が必要です。

⚠ 警告

- 防寒対策なしで -20°C 以下では使用しないでください。故障の原因となります。

(1) 着装前の注意

通常の「呼吸器の準備」(4. 1項)、「着装前の点検」(4. 2項)の際、次のことに注意してください。

- ① 呼吸器は、よく乾燥したものを使用してください。特に面体、吸気管は、内部まで濡れていないことを目視確認してください。またプレッシャデマンド弁は、吸気管との接続口から水が入っていないことを目視確認するとともに、接続口を下に向け、バイパス弁を開き、水分が排出しないことを確認してください。
- ② 面体の吸気弁、またノーズカップが正しく取り付けられていること、異常がないことを確認してください。不良の場合には、使用中、呼気によって面体がくもる場合があります。

(2) 面体をかぶる際の注意

- ① 面体を着用する際、呼気がアイピースにかかるとくもることがありますので、面体を正しくかぶるまでは呼吸を一時止めてください。
 - ② アイピースの内面が汚れている場合、呼気したときアイピースがくもることがありますので、常に清浄にしておいてください。
- ※ 使用環境によってくもりの発生する場合には、別売の曇止液やクリアビューをご使用ください。曇止液、クリアビューは代理店にお申し付けください。

(3) 使用についての注意

0°C 以下の所で作業を中断したり、ボンベを新しく交換して、再使用する場

合には、呼気中の水分や結露した水分が凍結して、呼気弁が固着することがあります。面体を顔に当て呼吸をして、呼吸が苦しいなどの異常がないことを確認してください。異常がある場合には、呼気弁を暖めて解氷してから面体をかぶってください。

7. 2 高温時における取扱い

環境温度が70℃以上の場合、呼吸器の上から防熱衣をかぶるなど、防熱対策が必要です。

⚠ 注意

- 防熱対策なしで70℃以上では使用しないでください。故障の原因となります。

7. 3 高気圧下における取扱い

(1) 高気圧下では、下記のとおり使用時間が短くなるなど大気圧下での使用と異なりますので、注意が必要です。

※「高気圧障害防止規則」も併せてご参考ください。

<大気圧下での使用時間が30分の場合>

環境圧力	98kPa(ゲージ圧)のときの使用時間	……	約15分
〃	196kPa	〃	…… 約10分
〃	294kPa	〃	…… 約8分

⚠ 警告

- 高気圧下では使用時間が短くなります。使用時間に適した、大容量のボンベを使用してください。作業完了前にボンベの空気がなくなるおそれがあります。

(2) 高気圧下では、警報器作動後の使用時間は、大気圧下のときに比べて短くなっています。警報器に頼らず、ときどき圧力指示計を見てボンベ圧力を確認してください。

⚠ 警 告

- 高気圧下では使用時間が短くなることを考えて、退避に十分なボンベ圧力を残して退避してください。警報器が鳴ってからでは、ボンベ圧力の減少が速く、退避できなくなる場合があります。

- (3) 高気圧下では、環境圧力294kPa（ゲージ圧）以上では使用しないでください。

⚠ 警 告

- 環境圧力294kPa（ゲージ圧）以上になると、着装者に窒素酔いの高気圧障害症状が現れ、正常な行動をとれなくなることがあります。

8. そ の 他

8. 1 ボンベの充てん

- (1) ボンベには次に示す空気を充てんするよう、充てん所に依頼してください。

項 目	基 準 値		
酸 素 vol %	19.5 ~ 23.5		
二酸化炭素 vol ppm	500 以下		
一酸化炭素 vol ppm	5 以下		
水 分	14.7 MPa容器	29.4 MPa容器	
	絶対湿度 mg/m ³	50 以下	35 以下
	水蒸気濃度 ppm	49.6 以下	34.3 以下
	大気圧露点 °C	-49.5未満	-52.6未満
揮発性有機化合物(メタン当量として)	25ml/m ³ 以下		
オイルおよびオイルミスト mg/m ³	0.5 未満		
臭 気	異臭のないこと		
そ の 他	人体に有害な物質・ガスを含まないこと		

- (2) 充てん後はそく止弁のネジ部にキャップをして、直射日光などの当たらない40℃以下で、ほこりの少ない、乾燥した場所に保管してください。

(3) 充てん圧力は、周囲温度によって変化します。ポンベの最高充てん圧力は、35℃においてポンベに表示されたFP値（単位MPa）と、高圧ガス保安法で定められています。

例えば29.4MPaポンベ（FP値29.4M）において、周囲温度20℃で充てん圧力が28MPaのポンベを周囲温度35℃に置くとFP値の29.4MPaを超えてしまい、過充てんとなります。

充てん圧力が、35℃でFP値とした場合の周囲温度での最高充てん圧力は、おおよそ下表の値ですので、充てんにあたっては、その圧力以下での充てん管理・運用をお願いいたします。

29.4MPaのポンベの場合		14.7MPaのポンベの場合	
周囲温度（℃）	周囲温度における最高充てん圧力（MPa）	周囲温度（℃）	周囲温度における最高充てん圧力（MPa）
35℃	29.4	35℃	14.7
30℃	28.8	30℃	14.4
25℃	28.1	25℃	14.1
20℃	27.5	20℃	13.8
15℃	26.8	15℃	13.5
10℃	26.2	10℃	13.2
5℃	25.5	5℃	12.8

8. 2 圧力指示計のグリーンゾーンとレッドゾーン

呼吸器の圧力指示計とポンベの圧力指示計に表示するグリーンゾーンとレッドゾーンは次に示す意味があります。

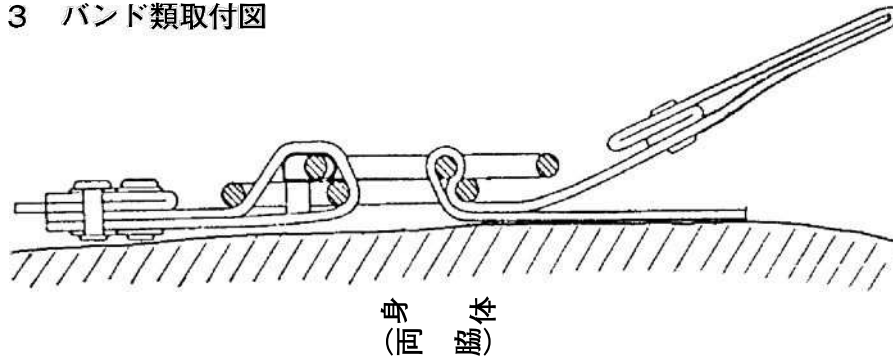
(1) グリーンゾーンは、周囲温度に関係なく、呼吸器を安全に運用・ご使用いただく目安としての圧力範囲を表示しています。充てん圧力は周囲温度に左右されるため、周囲温度が低い場合にはグリーンゾーンから外れる場合があります。

なお、圧力指示計の示度圧力は、およその充てん圧力です。正確に管理・運用される場合には、精度の良い検圧計等をご使用いただき圧力をご確認ください。

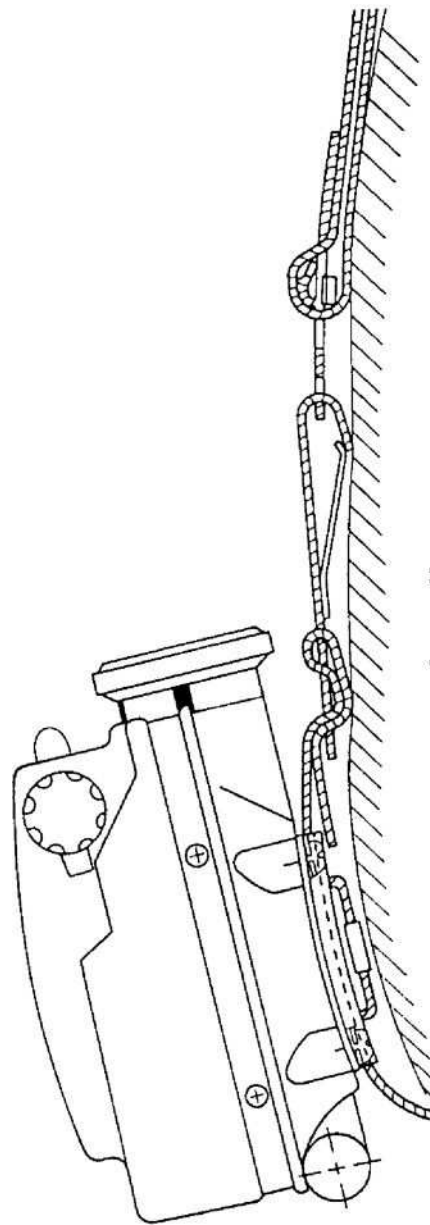
(2) レッドゾーン

レッドゾーンは、作業打ち切り時の限度目安となる呼吸器の警報器作動圧力範囲を表示しています。

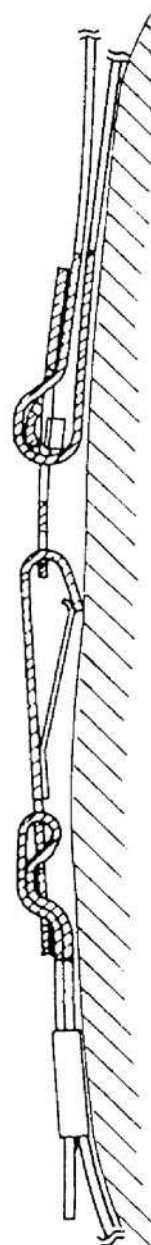
8. 3 バンド類取付図



脇バンド取付図



胸バンド取付図



腰バンド取付図

第22図 バンド類取付図

9. M30シリーズ点検整備要領書

項目	部分名称	点検要領	判定	処置方法	注意事項
外観	1 全体	1. 外觀検査 各部は正しく組付けられ、外觀に異常のないことを確認する。	使用に耐えるか否かを判定する。	使用に耐えない場合は交換を依頼する。 詳細は販売店へお問合わせください。	
		1) 面体、吸気管、呼吸弁 ① ゴム部分の劣化(粘着性・強度の低下・亀裂等) アイビスのキズ、割れを調べる。 ② 呼吸弁カバーを外し、呼吸弁等の損傷や異物の付着を調べる。 ③ 呼吸気室を指先でつまんで軽くひねり、ガタつきを確認する。	損傷や異物の付着のないこと。 ガタつきのないこと。	異常のあるものは使用を中止し、修理を依頼する。	
点検	2 ポンベ及びそく止弁	2) 中圧ホース：湾曲させて外皮ゴムの亀裂の有無を調べる。	使用に耐えるか否かを判定する。	使用に耐えない場合は交換を依頼する。 詳細は販売店へお問合わせください。	左右バンドの保護カバーでガードされている部分も同時に調べること。
		3) 圧力指示計空気管 ① ホースの折れ、キズ、亀裂等の有無を調べる。 ② 外皮ゴムの変色、変質等の有無を調べる。	使用に耐えるか否かを判定する。 変色、変質等のないこと。	使用に耐えない場合は交換を依頼する。 詳細は販売店へお問合わせください。	① 左右バンドの保護カバーでガードされている部分も同時に調べること。 ② ガードスプリングで保護されている部分も、同時に調べる(ガードスプリングを伸ばしホースを点検する)。
機能点検	3 そく止弁	4) ハーネス：バンド及び取付金具の使用の可否を調べる。	使用に耐えるか否かを判定する。	使用に耐えない場合は交換を依頼する。	バンドと取付金具の取付けは 8.3 項参照。
		5) ポンベ：各ポンベ取扱説明書、または、注意事項による。			
機械	2	2. 各接続部の検査 各接続箇所が確実に接続されているか確認する。	確実に接続されていること。	簡単に増締めできる箇所は適宜行ってよいが、その他は修理を依頼する。	
		1. 再検査 高圧ガス保安法に定められた再検査の期間内に再検査を実施する。	高圧ガス保安法に基づき検査に合格していること。	指定のガス容器検査所に依頼する。	① 製造年月は、ボンベに刻印表示している。 ② 再検査の期間は、注意ラベルに表示している。
点検	3	1. そく止弁開閉機能試験 ハンドルを1回転開くまでに空気が勢いよく噴出するか否かを見る。	1回転以内で勢いよく噴出すること。	空気が勢いよく噴出しない場合は修理を依頼する。	空気の消費量を少なくするために、操作は素早く行うこと。
		2. 空気を充てん圧力の確認 1) 圧力指示計付きボンベの場合は、その圧力指示計で調べる。 2) 圧力指示計が付いていないボンベの場合は次の要領で調べる。 ① 器械を組立て、陽圧ロックつまみを回してブレッシャアーママンド機能をOFFにし、そく止弁を開き、圧力指示計で調べる。 ② 確認後はそく止弁を閉じ、バイパス弁を開き、圧力を完全に抜いてから減圧弁を外す。 ボンベの圧力は周囲温度によって変化します。詳しくは4ページのボンベの圧力の確認をご参照ください。	14.7MPa用ボンベの場合は12MPa以上、29.4MPa用ボンベの場合は26MPa以上あること。	充てん圧力が規定以下の場合には補充を依頼すること。	充てん圧力が低いと、その分、使用時間が短くなる。
点検	3	3. 気密試験 空気を充てん後、次の箇所の点検を実施する。 1) 弁シート部 ① 14.7MPa用ボンベの場合減圧弁連結部に中性石けん膜をはる。 ② 29.4MPa用ボンベの場合減圧弁連結部を手で閉塞し、連結分の横穴(2箇所)に中性石けん膜をはる。	漏洩のないこと。 漏洩があれば石けん膜が膨らむ。	1. 漏洩のある場合は、少し強くそく止弁のハンドルを閉じる。 2. それでも止まらない場合は、修理を依頼する。	① そく止弁のハンドルを余り強く締めると弁を破損し、かえって漏洩をきたす。 ② 漏洩テスト後は、減圧弁連結部に保護キャップをすること。

項目	部分名称	点検要領	判定	処置方法	注意事項
3	そく止弁	2) 安全栓、ポンベとの結合部、盲プラグ（又は圧力指示計取付部）各両所に中性石けん水を塗布し調べる。 （圧力指示計付ポンベの場合は圧力指示計の保護カバーをはずして調べること。） 4. 圧力指示計年度試験 適宜実施する。 5. 気密試験（全体） 減圧弁～中圧ホースの気密試験時に同時に行う。	漏洩のないこと。 漏洩があれば石けん膜が膨らむ。	漏洩のある場合は、修理を依頼する。	① 試験後は石けん水をよくふきとっておくこと。 ② 圧力指示計は水中に浸さないこと。
4	減圧弁 プレッシャーマンド弁 警報器 圧力指示計 導気管 中圧ホース	1. 気密試験 1) 空気が26MPa以上充てられたポンベに減圧弁を接続する。 2) バイパス弁を閉じ、陽圧ロックつまみを回し、プレッシャーマンド機能をOFFにする。 3) そく止弁をゆっくりと開き、圧力指示計の指針が最も上昇するのを待ってそく止弁を閉じる。 4) 圧力指示計の示度降下を調べる。 5) 吸気管を外し、プレッシャーマンド弁の吸気管接続口に石けん水を塗布する。 （確認後、石けん水をふきとり吸気管を元通り取りつけておく。） 2. 機能試験① 1) 上記に引続き、再びそく止弁をゆっくりと止まるまで開く。 2) 面体を着装する。 3) 数回大きくあるいは小さく呼吸する。 3. プレッシャーマンド機能試験 ※1 1) 上記に引続き、面体のはばの部分に指をさし込み、空気の放出を確認する。 4. バイパス弁作動試験 1) 上記に引続き、バイパス弁を開き空気の放出を確認する。 2) 確認後バイパス弁を閉じる。 5. 機能試験② ※1 1) 上記に引続き、そく止弁を閉じ、呼吸を止めて圧力指示計の指針の降下を調べる。 2) その後、そく止弁を開き呼吸する。 6. 警報器作動試験 1) 上記に引続き、面体のしめひもをゆるめ、陽圧ロックつまみを回し、プレッシャーマンド機能をOFFにする。 2) 面体を外し、そく止弁を閉じる。 3) 圧力指示計を見ながらバイパス弁を少し開いて徐々に圧力を下げ、警報器が鳴動する時の圧力指示計の日盛りを読む。 7. 圧力指示計年度試験 適宜実施する。	1. 示度降下は、1分間に1MPa(1目盛)以内であること。 2. 疑わしいときは各接続部に石けん水を塗布すれば、石けん膜が膨らむので判定できる。 漏洩のないこと。 1. 1回目の吸気で陽圧に切り替わること。 2. 作動が鋭敏で、圧力指示計の指針が変化しないこと。 シューと音をたてて空気が放出すること。 バイパス弁1回転以内で勢いよく空気が放出すること。 10MPaから8MPaまでの降下時間が5秒以上であること。 始動設定圧力（標準は3MPa）付近で、明瞭に鳴動すること。 1. 指針がゼロを指していること。 2. 指針がひっかかりなくスムーズに作動すること。 3. 示度が正しいこと。 漏洩を感じないこと。	減圧弁～中圧ホース 1. 気密試験の項参照。 1. 示度降下が1分間に1MPa(1目盛)を超えるものは、修理を依頼する。 2. 簡単に増締めできる箇所は適宜行ってもよいが、できる限り修理を依頼する。 現地での修理は不可能のため、修理を依頼する。 1. 陽圧に切り替わらない場合は、修理を依頼する。 2. 呼吸毎に圧力指示計の指針が0.5MPa以上降下する場合は、修理を依頼する。 放出しない場合は、修理を依頼する。 放出しない場合は、修理を依頼する。 5秒未満の場合は、修理を依頼する。 大きくはずれている場合、音が不明瞭の場合、修理を依頼する。 異常のあるものは、修理を依頼する。	減圧弁～中圧ホース 1. 気密試験の項参照。 ① 減圧弁とそく止弁との接続部の“O”リングに、損傷がある場合は新品と交換すること。 ② 水中に浸して漏洩の確認をしてはならない。 ③ 試験後は、石けん水をよくふきとっておくこと。 ④ 14.7MPa用ポンベの場合は、12MPa以上充てんされたポンベに減圧弁を接続する。
5	面体 呼吸弁 吸気管	1. 気密試験 ※1 面体をかぶって吸気管を強く握りしめるか、またはプレッシャーマンド弁との接続口を手でふさいで吸気する。	漏洩を感じないこと。	漏洩を感じる場合は、修理を依頼する。	面体の接続面より漏洩がないこと。

※1印箇所試験には、6型テスター（TESTER Model6）がより正確で便利です。

10. 主要諸元

(1) ライフゼムM30シリーズ空気呼吸器の主要諸元は次の通りです。

機 種		M30
種 類		プレッシャデマンド形
使用ガス名		空 気
最高使用圧力		29.4MPa
質 量※		約4.1kg
最大補給量		約500ℓ / min
警報器	方 式	ホイッスル式
	始動設定圧力	3MPa
面 体 の 種 類		プレッシャデマンド形 CS面体またはSV面体
ハーネスの背板材質		鋼板またはステンレス板

※質量はボンベを含みません。

(2) ライフゼムM30シリーズ空気呼吸器用ボンベの主要諸元は次の通りです。下記の一覧表を参考にして、用途に合わせてお選びください。

ボンベ品番 ^{※3}		415	615	815	815CZ (815C)	530CIII (530CIII)	730CIII (730CIII)	930CII (930CII)
材 質		CrMo 鋼			CFRP-アルミニウム合金			
内 容 積 (ℓ)		4.0	6.0	8.0	8.4	4.67	6.8	9.0
最大携行空気量 (ℓ)		600	900	1200	1260	1270	1840	2430
使用時間(分) ^{※1}		15	23	30	31	32	46	60
質 量	総質量(kg) ^{※2}	5.5	8.0	9.8	4.8 (4.9)	4.7 (4.8)	6.1 (6.2)	7.7 (7.8)
	容器単体(kg)	4.4	6.5	8.0	3.0	2.7	3.6	4.5
寸 法	外 径 (mm)	138	165	165	173	138	172	173
	長 さ (mm) (そく止弁を含まず)	390	410	515	490	465	450	547
最高充てん圧力 (MPa)		14.7				29.4		
耐圧試験圧力 (MPa)		24.5				49.0		

前記一覧表の最高充てん圧力、耐圧試験圧力以外の数値はおおよその値です。保証値ではありません。

- ※ 1. 大気圧下での使用時間を示します。使用時間は着装者の訓練、経験の程度、精神的・肉体的要因、または作業内容、ポンベの充てん圧力などによって異なります。本表は最大携行空気量において、呼吸量（分時換気量）が約40ℓ/min の作業の場合を示しています。
- ※ 2. 総質量は、そく止弁、空気（最高充てん圧力）を含む値です。
- ※ 3. ポンベ品番の末尾に“Z”のついた容器には、圧力指示計が内蔵されたアルミニウム合金製のそく止弁付きのものです。

11. 部品交換要領

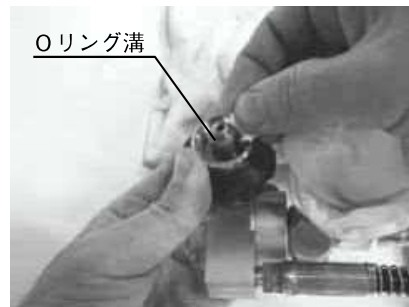
消耗部品(別売)を交換される際は、次の要領にもとづき部品を交換してください。

11. 1 減圧弁Oリングの交換方法

- ① 竹ぐしでOリングを取り外す。(第23図参照)
- ② 消毒用アルコールをしみこませた布等でOリング溝を清掃する。(第24図参照)
- ③ 新しいOリングをOリング溝に取り付ける。



第23図 Oリングを外す



第24図 Oリング溝の清掃

⚠ 注意

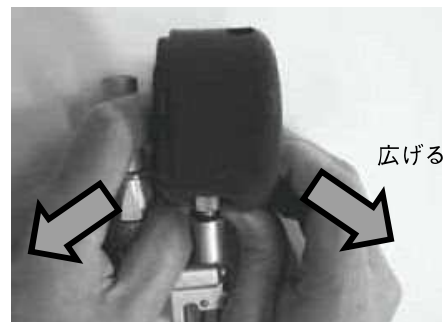
- Oリングは金物(ドライバー、針等)で取り外さないでください。Oリング溝を傷つけ、外気の漏れや事故の原因となります。

11. 2 圧力指示計ゴムカバーの交換方法

- ① ゴムカバーのスリットを押し広げ、圧力指示計から取り外す。(第25図参照)
- ② ゴムカバーのスリットを広げて取り付ける。(第26図参照)
- ③ 圧力指示計レンズカバーが締まっていることを確認する。(第15図参照)



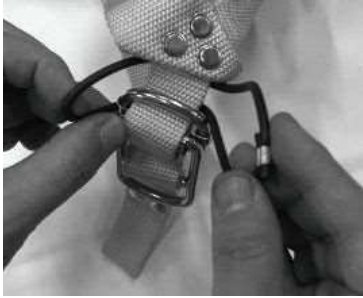
第25図 ゴムカバーを取り外す



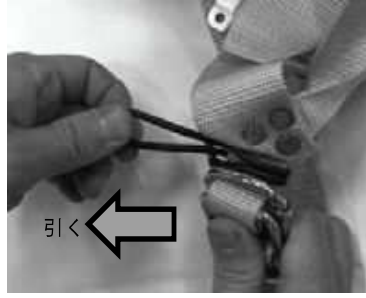
第26図 ゴムカバーを取り付ける

11. 3 圧力指示計導気管のゴムバンド交換方法

- ① ゴムバンドを圧力指示計導気管から取り外す。
※ ゴムバンドが外れにくい場合は、ゴムバンドをハサミ等で切り取ってください。
- ② 新しいゴムバンドを背負具の元の位置に取り付ける。(第27、28、29図参照)



第27図 ゴムバンドをかける



第28図 ゴムバンドを引く



第29図 圧力指示計にかける

- ③ ゴムバンドを圧力指示計にかけて取り付ける。(第30図参照)



第30図 圧力指示計に取り付ける

11. 4 しめひもの交換方法

- ① 左右4カ所については、門環から、しめひもを外します。
(第31図参照)
- ② 頭頂部2カ所については、リングごと外します。(第32図参照)
- ③ しめひもの裏・表、ねじれ等に注意して、外した手順通りに取り付けます。(第33図参照)



第31図



第32図



第33図

空気呼吸器調整器 保証規定

1. 本製品が取扱説明書の記載内容に従った正常なご使用状態で故障した場合、当社または保証サービスを提供する販売店は、本保証規定の示す期間と条件に従って、部品の交換あるいは補修を無償で行います。
2. 本製品の保証期間は、本製品を当社または、その販売店よりお買い上げいただいた日から2年とします。
3. 保証サービスは、保証期間中に当社または、保証サービスを提供する販売店に本製品を持参、または送付していただくことにより提供します。本製品を持参、または送付される場合、包装は、お買い上げ時の包装もしくは、これと同等品をご使用いただくものとし、輸送中に本製品の滅失、破損が生じた場合は、お客様にご負担いただきます。
4. 保証期間中でも、次の場合は有償の修理となります。
 - (ア) お取り扱いの不注意または、誤ったご使用による故障
 - (イ) 当社または、当社販売店以外で修理・調整された場合の故障
 - (ウ) 当社製品・部品以外の製品または、部品を使用したことによる故障
 - (エ) 地震、台風、水害などの天災並びに火災、事故などにより発生した故障
 - (オ) 煤煙、薬品、塩害などの天災並びに火災、事故などにより発生した故障
 - (カ) 消耗品の交換
 - (キ) ご使用に伴い生じる外観上の変化（ケース、アイピースの傷など）
5. 当社規定により、遠隔地とされる地域へ出張修理を行った場合は、出張に要する費用を申し受けます。
6. 本製品の故障または、その使用により生じた直接、間接の損害について、当社はその責任を負わないものとします。
7. 本保証規定は、日本国内のみにおいて有効です。

製 造 元

エアウォータ防災株式会社

総 発 売 元



www.sts-japan.com

本 社	〒114-0024 東京都北区西ヶ原 1-26-1	TEL 03 (6903) 7525 FAX 03 (6903) 7520
北海道営業所	〒065-0007 札幌市東区北七条東 13-2-11	TEL 011 (743) 6001 FAX 011 (743) 6005
東北営業所	〒984-0015 仙台市若林区卸町 4-3-8 パイパス齊喜ビル	TEL 022 (235) 7733 FAX 022 (235) 7736
東京営業所	〒114-0024 東京都北区西ヶ原 1-26-1	TEL 03 (3915) 8081 FAX 03 (3917) 6233
北関東営業所	〒360-0032 埼玉県熊谷市銀座 3-56-1 K'sタワー2F	TEL 048 (529) 7566 FAX 048 (529) 7557
千葉営業所	〒260-0842 千葉市中央区南町 3-4-5	TEL 043 (261) 0110 FAX 043 (263) 2203
横浜営業所	〒220-0072 横浜市西区浅間町 2-95-3 ハイツ・ラ・ヴィスタ1F	TEL 045 (314) 0921 FAX 045 (314) 6355
上越営業所	〒942-0061 新潟県上越市春日新田 1-20-8 日建ビル2F	TEL 025 (545) 4350 FAX 025 (545) 4370
名古屋営業所	〒456-0031 名古屋市熱田区神宮 2-5-17	TEL 052 (682) 4798 FAX 052 (682) 0404
大阪営業所	〒537-0013 大阪市東成区大今里南 2-9-7	TEL 06 (6953) 8521 FAX 06 (6951) 4934
姫路営業所	〒671-2244 姫路市実法寺 297-1	TEL 079 (267) 6788 FAX 079 (267) 6787
岡山出張所	〒712-8032 岡山県倉敷市北畝 6-18-54	TEL 086 (450) 2221 FAX 086 (450) 2400
広島営業所	〒731-0138 広島市安佐南区祇園 3-46-5	TEL 082 (871) 5510 FAX 082 (871) 5366
四国営業所	〒792-0012 新居浜市中須賀町 1-3-212 第3サンワビル1F	TEL 0897 (33) 8666 FAX 0897 (34) 8191
九州営業所	〒812-0011 福岡市博多区博多駅前 1-20-18	TEL 092 (431) 1265 FAX 092 (481) 5169

改良のため仕様の一部を変更することがあります。

G09-1-328-1-2606